

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
都市部の公園・北部グループ	(指定管理者名)公益財団法人 東京都公園協会 (団体の概要)都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業(指定管理者事業を含む)及び収益事業を行う。
指定期間	
H28.4.1 ～ R5.3.31(7年間)	

2 施設名	3 収支(単位:千円)				
戸山公園・善福寺公園・高井戸公園・浮間公園・赤塚公園・石神井公園・大泉中央公園		令和4年度	令和3年度	令和2年度	公園別支出額
	項目	金額	金額	金額	
	収入計	753,519	711,050	694,477	戸山公園：138,085 善福寺公園：59,399
	内 指定管理料	753,519	711,050	694,477	高井戸公園：46,102 浮間公園：117,061
	内 利用料金	0	0	0	赤塚公園：133,890 石神井公園：143,650
	支出計	724,522	700,227	691,356	大泉中央公園：86,335
収支差	28,997	10,823	3,121		

4 管理運営の概要

基本理念： 水と緑の宝石箱 ～地域と共に磨き、輝く～

【築く】 公園の持つ機能・役割を守り、地域の安全・安心を高める

- ・高井戸の南地区開園に伴う飛球対策や近隣対応、戸山の救命措置を含むホームレス対策等、幅広い利用調整や適正化を図った。
- ・GISを活用した計画的な樹木管理や、施設の点検補修、地域連携を拡大した新たな防災訓練等、安全・安心な環境を整えた。

【磨く】 都立公園としての魅力を更に高め、次世代に継承する

- ・連続講座による新規ボランティア立上げや、高校生の課外活動のコラボ等により都民協働を活性化し、生物多様性を推進した。
- ・地域の民間企業や図書館、大学等との連携を拡充し、イベントやSNSを通じて公園や地域の歴史・自然に関する魅力を広く発信。

【輝く】 多様なニーズに的確に対応し、公園を核に地域の活力を高める

- ・地域の自治体や民間企業、NPO等と連携した協議会活動を推進、メンバーの自発的な企画、運営を的確にサポートしながら、新たな事業を展開し、多世代交流の促進や、地域の賑わいづくりに繋げた。
- ・特別支援学校等との新たな連携やNPOと連携した子ども居場所づくり等の事業を通じて、公園のインクルーシブ利用を推進した。

5 管理状況(維持管理)

- ・区や地域等との連携で、大久保ツツジの「挿し芽会」を園内で初開催し、3年・4年前の「挿し芽会」以降、各家庭で大切に育てられた大久保ツツジが、公園に里帰りを果たし更なる魅力UPに繋がった。(戸山)
- ・各地でナラ枯れ被害が進行するなか、親子連れを主体にどんぐりの育苗によって善福寺の豊かな自然を維持していく新たなボランティアを組織した。(善福寺)
- ・近隣住民等からの意見に対し、地域との丁寧な調整や都との協議を行い、道路と連携した歩道橋周辺の水溜まり解消工事や、城址地区の坂道カーブの滑り止め等で、事故を未然に防止した。(赤塚)
- ・生物多様性の魅力を広く親子連れにも伝える、「蝶々園」を新たにオープン。親子連れをターゲットにした新たな生物多様性の取組が注目を集め、日本鱗翅学会第68回大会で職員が講演を行った。(石神井)
- ・新たに「ザリガニバイバイプロジェクト」を展開するなどして、ボランティア等との協働による外来種駆除や希少種保全を推進。(善福寺・浮間・赤塚・石神井・大泉)
- ・台風や降雪等の気象災害対応とともに、荒川下流域氾濫に備えたタイムライン訓練を実施し対応力を向上した。(全公園)

6 利用者アンケート結果

実施方法：公園内で調査票を配布・回収/QRコード掲示によるWEBアンケート

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
戸山公園	4.9	4.9	4.6	4.8	4.9
善福寺公園	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8
高井戸公園	4.8	4.7	4.7	4.7	4.7
浮間公園	4.9	4.8	4.8	4.7	4.8
赤塚公園	4.8	4.6	4.5	4.6	4.6
石神井公園	4.9	4.9	4.6	4.8	4.9
大泉中央公園	4.8	4.7	4.6	4.8	4.9

7 入園者数の状況(単位:人)

施設名	当該年度	分析
戸山公園	1,053,756	近隣企業や施設、大学等との連携が拡大し、各種イベントや江戸野菜プロジェクト、防災訓練等を更に推進した。
善福寺公園	911,952	年間で1,000人以上の児童・生徒達の受入れ、高齢者施設への出張講座、記念誌刊行等を通じて公園愛を醸成した。
高井戸公園	487,141	南地区オープンに関する地域連携イベントや防災訓練等の地域連携を拡充した。また、新たな課題へも着実に対応した。
浮間公園	1,330,318	協議会の自発的な企画・運営による、キッズスマイルフェスタ等の新たなイベントや事業を続々と実現した。
赤塚公園	885,498	「ニリンソウ月間」や「東京五感公園」等の規模拡充や、生態保全ボランティアと高校生のコラボを推進した。
石神井公園	1,866,861	バタフライガーデンの整備や普及啓発、SDGs体感イベント拡充等を実施した。また、ザリガニバイバイプロジェクトを始動した。
大泉中央公園	301,495	子ども達を対象にした独自の自然観察会を年間41回開催。また、特別支援学校や支援ホームとのコラボ事業を展開した。
合計	6,837,021	



# 戸山公園

所在地：新宿区／開園面積：18.64ha

戸山荘をはじめとした歴史・文化の発信と  
五輪を契機とした安心・安全・健やかな  
公園づくり



地域みんなで公園をキレイに！ 楽しいゴミ拾いムーブメントの発信

## +αで意識も変わる、本当は楽しいゴミ拾い！

学生や多国籍の来園者で賑わう一方、ゴミマナーが課題だった戸山公園。地域の様々な主体と連携して、公園美化を推進した（計13回）。

### ● プロギング（走って拾ってエクササイズ）

（一社）プロギングジャパンと（株）アルペンと初コラボし、ジョギングしながらゴミ拾いをするイベントを開催。地域周遊によって、健康づくりと美化意識の向上に繋がった。

### ● 保育園や地元団体等との連携イベント

近隣幼稚園や活動団体、日本児童教育専門学校、新宿区等との初コラボで、ハロウィンやクリスマスの衣装を交え、賑やかに清掃活動を実施。紙芝居やスケルトン収集車なども使って、子ども達にも分かりやすくSDGsを伝えることができた。

### ● 少年野球リーグ対抗「ゴミ拾い大会」

地元6チームと、野球だけでなくゴミの回収量で勝負する新競技を開催。対抗戦となると熱が入り、200人の選手が一斉にゴミ拾いに励む姿には、来園者からも驚嘆と激励の声が多く聞かれた。優勝チームの回収量はなんと8.8kg！

「プロギングって楽しい！」



紙芝居で子ども向けにSDGsを解説



様々な利用者が集う戸山公園ならではの「自助」「共助」

## 点字図書館や日本語学校等と連携した訓練

日本点字図書館と連携して、目の不自由な方の避難誘導訓練を初実施。区や警察、消防、学生ボランティアも加わり、約400mに渡る公道の安全な誘導方法について実地に学んだ。

また、近隣の日本語学校を対象とした防災訓練を複数実施。語学力や土地勘に不安がある、30か国以上、約600人の学生が参加。訓練を通じ、「自助」「共助」の念を持ってもらえた。

外国人留学生も一緒に防災力UP





## 地域の新たなムーブメント！ 江戸東京野菜と江戸園芸植物を育てる

### 内藤とうがらしプロジェクトの拡充

プロジェクトメンバーには、早稲田大学農楽塾ほか、**新たに**目白大学社会学部ゼミ、新宿調理製菓専門学校などが加わり、活動に弾みが生まれた。

収穫祭では、調理学校とのコラボで**独自**開発した「箱根山朝七味」や、**地元**の飲食企業とコラボしたオリジナルチキンの販売も行い、公園を舞台に地域ブランドの普及啓発や賑わいづくりに貢献することができた。

### 「おかえり！大久保ツツジさん」

新宿区や大久保地区協議会との連携で、これまでに出張講座を行っていた「挿し芽会」を、**新たなサービスセンターのお披露目も兼ねて、公園内で初開催**。さらに、3年・4年前の「挿し芽会」以降、各家庭で大切に育てられた大久保ツツジが、**公園に里帰り**を果たした。

また、「箱根山ツツジまつり」では、コロナ禍を鑑みて動画配信も並行で実施し、取組のさらなる普及啓発に繋がった。

### 「箱根山朝七味」は即日完売！



都立戸山公園 園長の探れたて情報 @ParksToyama - 10月24日  
昨日の「内藤とうがらしガーデン収穫感謝祭in戸山公園」ご来場の皆様ありがとうございました！内藤とうがらし七味ご当地シリーズに戸山公園箱根山朝七味が加わりました！日本おいしいもの新聞サイトで販売予定です。#内藤とうがらし #戸山公園 #新宿タイガー #箱根山 #日本おいしいもの新聞



### 大久保ツツジが公園に里帰り



## 地域との新たな連携で、戸山公園の魅力を多方面に発信

### タイムトリップによる戸山の魅力発見

地域連携による**新たな**普及啓発イベントを次々と展開。

地元町会長の噺家による大久保ツツジを枕にした「江戸落語」、戸山図書館との戦前・戦後の戸山一帯の「16mm映画」上映会、昔懐かしいプロの紙芝居師とコラボした歴史解説、戸山シニア活動館との「尾張藩主徳川慶勝の菩提寺ツアー」など、新たなイベントで公園と地域を繋ぎ、多角的に魅力を発信した。

### 公園を舞台に子どもの夢を育む取組

早大理工学部と**初**コラボした「キッズラボ・子ども理科実験教室」を年間**2回**開催し、「理系離れが進むなか、子どものうちに科学の楽しみを伝えたい」という**大学側にも大きなメリット**のあるイベントとなった。

また、戸山図書館との「青空紙芝居」、新宿未来創造財団との「セミ博士になろう！」、地元民間企業等との「昆虫ワークショップ」などを通じて、**多くの子ども達に戸山公園のファン**になってもらうことができた。

### 地元町会長の流行亭喜楽氏



### キッズラボでは子ども達もドキドキ





# 善福寺公園

所在地：杉並区／開園面積：8.02ha

武蔵野三大湧水池の景観と  
自然・歴史・文化の次世代への継承



子どもからお年寄りまで、みんなが善福寺公園のファン！

## 未来の善福寺公園を守るのは君たちです

豊かな自然を生かして、桃井四小、井荻小、荻窪中、井草中、杉並工業高校、農芸高校など、多様なニーズに応じて、校外学習やインターンシップをコーディネートし、**年間で1,000人以上の生徒達**の受入れを実施。その後も、自発的に活動する生徒が出てくるなど、公園への愛着醸成に繋がった。

また、明治大学のサークルとコラボした**新たな清掃活動**（延べ90名以上）が、地元のケーブルテレビに取り上げられるなど大きな反響もあった。

みんな善福寺公園が大好き！



近隣のお年寄りにとっても大事な公園



## 公園の魅力を伝える地域出張講座

区の高齢者活動支援センター「ゆうゆう善福寺館」にて、「ゆうゆう善福寺アカデミー」と題した**出張講座を初開催**。公園の魅力や地域との繋がりにスポットを当てた講演の後に、公園の好きなところ、昔の思い出などを語って頂いた。

皆さんの熱い想いや期待値などについて改めて確認し、今後の管理に活かすよい機会となるとともに、**日頃の管理についても感謝の言葉を多数頂く**ことができた。

## 善福寺公園の魅力を記録し、後世に伝える

### 開園60周年を記念した冊子の刊行

令和4年3月に開催した「開園60周年記念シンポジウム」や、関係者の対談を記録した**記念誌「善福寺池、人と、鳥と。過去と、未来と。」**を刊行。

善福寺にまつわる、歴史・風致・野鳥・都市公園などの観点から、**地元が輩出した様々なレジェンドの講演内容や資料を全32ページ**に渡って収録し、関係者や希望者に**1,000部**配布することで魅力を広く伝え、未来についてみんなで考えていく機会を提供した。

善福寺まつわるレジェンドがずらり





## 新たな連携やイベント開催で、公園の新たな魅力を創出

### ネイチャーイベント「LOVE！善福寺公園」

関係自治体やNPO、民間企業など多様な**10団体**と連携して、野鳥や池、川など、それぞれの得意分野を活かしたブースや観察会を展開し、善福寺公園の魅力をアピール。

また**新たに**子ども達の関心を引き込む仕掛けとして、講談社と**コラボ**した、移動絵本図書館と「おはなし隊」を展開し、幅広い世代の公園や自然体験に繋げることができた。

子ども達も“自然”と自然を満喫



みんなで作るアート作品



### 様々な主体のコラボで新たなプロジェクトが実現

開校90周年を迎えた桃井四小と、地域のアートイベント「トロールの森」、ボート場を管理する公園協会・営業課とのコラボで、ボートにアートペイントを施す**新たなプロジェクト**を展開。

ペイントされたカラフルなボート5艘はお披露目式の後、一般利用に供しており、様々な主体との連携によって、一過性のイベントではない、新たな魅力を創出することができた。

## 地域と共に考え、育む、善福寺公園！

### 小さなギャラリーでも、大きな感動

善福寺公園をテーマに、みんなで企画・立案・展示を行うミニギャラリーは、地域コミュニティを活性化する場としても機能。今年度は、**新規4企画**を含む、**16回の展示会を開催し、来場者は5,183人**（前年比182%）となった。

また展示に合わせて、「昆虫木工キット」「クリスマスリースづくりキット」など、発生材を活用したワークショップやキット配布を行い、幅広い世代が集い、賑わう空間となった。

昆虫展と木工ワークショップ



みんなで守ろう善福寺の自然！

### 新たな親子ボランティアの立ち上げ

各地でナラ枯れ被害が進行するなか、親子連れを主体に**どんぐりの育苗**によって善福寺の豊かな自然を維持していく**新たなボランティア**を組織。

様々な保全活動に取り組んでいる団体の協力のもと、自然について楽しく学べるイベントや、「善福寺公園ファンの集い」と題した**ディスカッション**を行い、今後の活動に関する正しい知識とモチベーションを高めた。





# 高井戸公園

所在地：杉並区／開園面積：8.17ha



武蔵野台地の開放的な空間を活かした  
地域活性化と健やかな公園づくり

令和4年8月1日、南地区がついにオープン！

## 地域でつくる、新たな魅力スポット

地域の親子連れを中心にした意見交換の場「あおぞら会議」では、南地区の新規オープンに伴って、新たな魅力スポットづくりを企画。花苗の植栽で入口を彩り、みんなで祝いするイベントを開催し、地域の一体感を演出した。

また花苗は、令和2年の開園以来、地域で育ててきた花の種や宿根草を用い、SDGsを意識した環境学習にも寄与。植付イベントの参加者は、春の60人から秋には**倍以上の125人**に増えるなど、着実な公園への愛着醸成にも繋がっている。

みんなでお花を植えよう！



多くの親子連れが参加してくれました

## 南地区の魅力を感じるスタンプラリー

また、「あおぞら会議」でアイデアが出た、南地区の新たな見どころを巡るスタンプラリーを開催。メインエントランスにあるヒマラヤスギの大木や、幅広い世代に人気のアスレチック遊具、青々とした芝生が自慢の野球場などを巡るイベントを通じて魅力を体感してもらい、更なる来園者の誘引と園内の周遊性アップを図った。



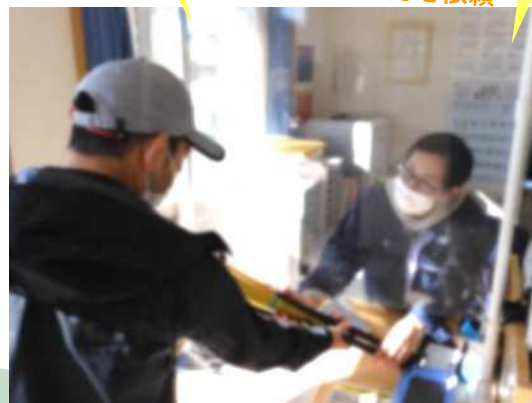
## 開園後の新たな課題と真摯な対応

### 地域に愛される公園を目指して

南地区のオープンに際しては近隣住宅を一軒一軒訪問し、その後も積極的なコミュニケーションを図ることで、要望や課題を丁寧に把握。開園後に新たに判明した、出入口での自転車飛出し等については、警察と連携した注意喚起で事故を防止。

また、野球場のファールボールの飛出しについては、利用者に高反発バットを使用しないよう協力を求めつつ、代替りのバットを貸し出すなどして、飛球の軽減と被害の防止に繋がった。

丁寧な説明で協力を依頼





## 公園から広がる地域連携の輪！

### 区の防災課やコーディネーター等との初コラボ

地域への粘り強い働きかけが功を奏し、今年度は、杉並区の防災課をはじめ、地域防災コーディネーター、富士見ヶ丘町会等と**初連携**した防災訓練を**2回**実施。

マンホールトイレ等の稼働訓練や、防災かまどベンチでの焼芋体験、防災クイズに加えて、**防災ドローンの実機展示や撮影映像の紹介**等、内容もさらに充実し、地域一体となって災害対応力をアップするよい機会になった。

粘り強い働きかけで地域連携訓練が実現



ここはみんなで作る公園なんだよ



### 近隣の小中学校とのタイアップ

公園に隣接して建設が進められている**富士見丘小等との連携**をさらに強化。小学校の校外学習では、地域みんなで作っていく公園であることをアピールし、オニアザミパトロールや芝生のガラ石回収などの具体的な協力が繋がった。

また、**富士見ヶ丘中の環境学習とのコラボ事業**では、生徒約70人で約**340kg**の落葉を回収し、達成感とともに公園への愛着をさらに深めてもらった。

## 様々なアプローチで、高井戸公園の魅力を多角的に発信

### 公園＆玉川上水＆神田川を巡る地域周遊ツアー

公園を起点に神田川や玉川上水もフィールドとした**新たな自然観察会**を実施。日本野鳥の会の会員で、地元の自然写真家のご夫妻をガイドに、水辺や自然林に近い環境で、22種の野鳥をはじめ、樹木や昆虫等を観察することができた。

南北の水辺環境を結ぶ**緑地帯**として高井戸公園の重要性を普及啓発するとともに、**地域の回遊性**を高めるきっかけを提供することができた。

あっ、カワセミ！

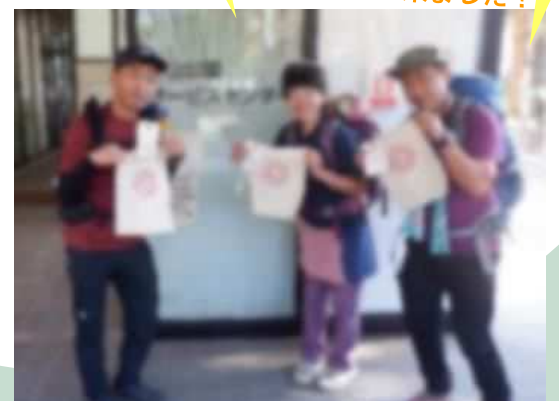


戸山公園から来ました！

### 公園協会アプリで広域からの利用を促進

コロナ禍やDXの推進を鑑みて、今年度のスタンプラリーは、公園協会アプリ「TOKYO PARKS PLAY」を活用。

紅葉を楽しみながら**北部グループ7公園を周遊する企画**で、普段は来園機会の少ない広域からの呼び込みに成功。アプリ内のコンテンツや景品の充実で、**参加者は昨年度の約2倍となる1,363人**となり、高井戸公園の認知向上や魅力の普及啓発に繋がった。





# 浮間公園

所在地：板橋区、北区／開園面積：11.73ha

荒川の自然・文化の発信と  
公園を拠点とした地域活性化



地域の“やってみたい”を続々実現！ みんなでつくる浮間公園

## 「チームUkiUkiミーティング」発の企画

地域10団体の協議会メンバーが主体となって**新たな**企画を立ち上げ、**続々と**実現。コロナ禍を経て念願の開催となった「UkiUkiマルシェ」は、地域の飲食・物販・ワークショップ、ステージ等、50を超えるコンテンツで賑わった。

また、子育て支援団体やNPOと連携した「キッズスマイルフェスタ」も大盛況で、初開催にも関わらず**それぞれ約8,000人**が来場し、地域の新たな賑わいを創出した。

初開催の「キッズスマイルフェスタ」



## 「うきうき隊」の企画力・運営力がアップ

親子連れを中心とした「うきうき隊」の自発的な取組を推進するため、**新たに**ファシリテーターを導入。LINEグループには**100組**を超える親子が登録し、いつでもちょっとした疑問にもお答えしながら、企画・運営をサポートした。

また今年度より、**プチマルシェ**を毎月開催。地域のケータリングカーやワークショップが人気で、オープンエアでコロナ禍でも安心・快適な空間を提供することができた。

地域が主役のワークショップ



## 過去最多！2万球のチューリップで彩る広場

3年目を迎えたコミュニティガーデンは、クラウドファンディングで約**38万円**の支援とともに、総勢**390人**の協力を得て球根を植え付けるなど、地域と一体となった取組に成長。

さらに、都の受託事業「花と光のムーブメント」との連携で、例年の2倍となる約**20,000球**のチューリップとともに、**新たに**北区や保存会との連携で、地域の名所である桜草園場をライトアップし、シビックプライドの醸成に大きく寄与できた。

地域一体となった取組に成長！







## みんなで守る地域の安全！ 新たな連携や普及啓発イベント

### ネットワークを生かした防災対応力の向上

志村消防署と連携した「防災フェスタ」に加えて、赤羽消防署・警察署・自衛隊・NPOと連携した「防災キッズフェスタ」を**初開催**（6月・3月）し、子どもでも楽しく防災を学べる機会を提供。

また、地域の**8企業230人**やコメダ珈琲、近隣町会や福祉団体と連携した訓練を通じて、地域の防災意識を向上した。

さらに、荒川沿いの国交省・荒川河川下流事務所、川口市、板橋区、北区と**初**連携した防災イベント「いいね荒川」を開催し、地域一体となった普及啓発を行うことができた。

かまどベンチの実演中



## 子どもからランドスケープデザインの学生まで、浮間公園の「花育」

### 楽しく学び、ぐんぐん育つお花と子ども

近隣の**8保育園**との連携で、種まきだけでなく、水やり・花摘みなど年間を通じて植物管理に携わってもらうイベントを展開。**延べ716名**の園児が参加し（昨年度比：**186%**）、自然や公園への愛着を深めてもらえた。

また、**東京農大**との連携で、ランドスケープデザインの知識を活かした、新たなコミュニティガーデンを造成。学生の実地の学びや、インターシップさながらの体験にも繋がった。

一連の作業では、「**ブルーギルバイバイプロジェクト**」で生成した**堆肥**を使用し、SDG sを意識した環境学習にも寄与した。

花育でSDG sを実体験



## 飲食店とのコラボで、地域の魅力や賑わいがアップ！

### コメダ珈琲店とのコラボした様々な事業の推進

コメダ珈琲店とのコラボで、LINEアプリを使った謎解きゲーム「**進め！浮間公園探偵団**」を**初実施**。園内のビューポイントや、ブルーギルバイバイプロジェクト等の取組を体感するコンテンツで、開始日のTwitterのインプレッション数が通常の**2.5ヵ月分**にあたる**106,991**となるなど、イベント開催に留まらないPR効果もあった。

また、「うきうき隊」とも連携したカフェ花壇や、**新たに**公式サイトを活用したフォトコンテストを行うなど、相互連携で地域のさらなる魅力向上に繋げることができた。

コメダ珈琲とコラボした謎解きアプリ





# 赤塚公園

所在地：板橋区／開園面積：25.54ha

武蔵野崖線の自然、  
地域の歴史・文化の発信と  
健やかな公園づくり



地域ぐるみで、赤塚公園の魅力を全力アピール！

## 3年振りの開催でパワーアップ「ニリンソウ月間」

板橋区とのタイアップにより、町内掲示板2,000カ所へのポスター掲示や、区報、地域新聞、コミュニティバス等で広報し、都内最大のニリンソウ自生地をPR。区役所でのニリンソウ展示や、区立植物園とコラボしたガイドツアーも行い、約**6,000人**の来場に繋げることができた。

またコロナ禍も鑑みて、ボランティアガイドのほかフィールドミュージアムガイドの配布や（800部）、解説ボードの設置などセルフガイドツールを充実させ、多様なニーズに応えた。

都内最大のニリンソウ自生地は圧巻



親子での笑顔が絶えません

## 赤塚の魅力を丸ごと体感「どんぐりまつり」

ボランティア5団体や板橋区との協働で開催した「どんぐりまつり」は、昨年の2倍以上となる約**750人**が参加。

新たに実施したクイズラリーでは、各ボランティアが展開するブースをくまなく巡ってもらうことで、公園の魅力を多角的にアピールするとともに、来園者交流を通じてボランティアのモチベーションアップに繋げることができた。



近隣学校とのコラボ強化で、ボランティア活動が活性化

## 高校や特別支援学校が大活躍！

高島高校のキャリアデザインとコラボした清掃活動は、今年度は2学年に連携を拡大し、総勢**679人**で**11 t**以上の落葉を回収。

さらに、ニリンソウの保全活動にも**初**参加し、メンバーが高齢化するなか新たな戦力として期待されるとともに、多世代交流によるメンバーの活性化にも一役買うことができた。

また、高島特別支援学校との協働でも2学年に連携を拡大し、車いすの生徒も初参加。一連の活動を通じて、来園者にも美化意識の啓発を行うことができた。

高校生のパワーをフル活用





## 広がる、繋がる！アートイベント「東京五感公園2022」

### イベント規模の拡充で賑わいアップ！

好評の「光るバルーンを空にあげよう」や「竹灯り」ワークショップの参加枠を、コロナ対策を徹底しつつ大幅に拡大。事前申込枠（400人）は1週間で完売し、イベント当日も見物客が約**2,000人**集まるなど、大盛況となった。

### 特別支援学校の協力を2校に拡充

「アート作品展示」は、区内の特別支援学校2校が**初めて**揃い踏み。地元アート教室の子ども達の作品とともに、個性的な作品で公園を彩った。

### 新たに「高島平マーケット」を開催

地域の特産品ブースを**新たに**設置し、「高島平ビール」や「板橋Tシャツ」の販売、地元カフェの出店などで、シビックプライドのさらなる醸成に繋がった。

### 地域ボランティアによるサポートの拡大

地域の中・高・大学、児童館など、事前ワークショップから当日の運営まで、**延べ約100人**にサポートいただき、名実ともに地域で盛り上げるイベントに成長した。

光るバルーンを空にあげよう！



延べ100人のサポーター



## 地域ニーズの丁寧な把握と管理への反映

### 住民との対話を通じた的確な対応

自然豊かな崖線部が広く住宅地に接することからも、樹木剪定や草刈、落葉対策等についての多くの意見が寄せられたが、都議や町会、要望者と丁寧に調整を進めながら、東部公園緑地事務所とも協議し、**生態保全にも配慮した的確に対応**を進めた。

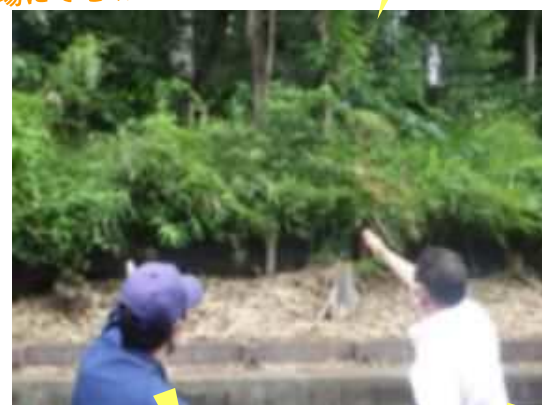
また利用者の意見を踏まえて、**第四建設事務所と連携した歩道橋周辺の水溜まり解消工事**や、城址地区の坂道のカーブに滑り止め加工を施し、自転車の転倒事故などを未然に防止した。

### 地域の防災意識向上に向けた取組

志村消防署とともに、**3年振りとなる「ファイアフェスタ」を開催**。約**1500人**の来場者に防災施設の展示や解説を通じて、災害時の公園の機能を子どもにも分かりやすく紹介した。

また、今年度は新たに（公社）日本非常食推進機構との連携によって「缶入りソフトパン（救缶鳥）」等を配布し、食料をはじめ各家庭での備蓄の大切さも知ってもらい、「自助」「共助」の意識について普及啓発することができた。

現場にて地域ニーズを丁寧に把握



みんなで守る地域の安全





# 石神井公園

所在地：練馬区／開園面積：22.62ha

ゆとりとやすらぎを感じる豊かな自然と、機能を備えた地域の防災拠点を未来へ継承。



バタフライガーデン「蝶々園」の新規オープン！

## 新たな魅力スポット、バタフライガーデンの整備

石神井公園の生物多様性の魅力を、一部のファン層だけではなく広く親子連れにも伝えるため、子ども達にも大人気のチョウを誘致する「蝶々園」を**新たに**オープン。

1930～40年代の地域文献や、地元住民の意見も参考に蜜源や食草を選定し、初年度から**50種**のチョウの誘致に成功。整備にあたっては、バリアフリーや間伐材の再利用にも配慮した。

## 生物多様性を楽しく・分かりやすく体感

理学博士や専門学会幹部などの専門家を招き、個体に触れたり嗅いだりと、様々なアプローチで生物多様性を体感できる**観察イベント**を**新たに4回**開催。さらに、バタフライガーデンを有する大泉中央公園や東村山中央公園とも連携したSNS発信で、普及啓発を強化した。

親子連れをターゲットにした新たな生物多様性の取組は、**専門学会でも注目を集め、日本鱗翅学会第68回大会で職員が講演**を行った。

楽しく学ぼう、生物多様性



石神井の取組に注目が集まる！



## 地域一体となった災害対応力の向上

### ますます広がる、繋がる、地域防災の輪

地域の災害対応力の向上のため、防災訓練をバージョンアップ。警察・消防・区・町会等と連携して、かまどベンチやマンホールトイレを稼働する訓練を年3回実施した。

また、ボートからの転落事故等に備えて、**AEDや心肺蘇生技術を向上する水難救助訓練**では、石神井警察に加え、お隣の埼玉県警も**初**連携するなど、地域の協力・連携の輪を広げることができた。

みんなで守る、地域の安全！



## 新たな視点で公園のインクルーシブを推進

### 公園ならではの子どもの居場所づくり

家庭の事情によって公園の利用機会が少なく、そもそも公園や自然に興味を抱ききっかけも持てない子ども達に、NPOとの連携で様々なアクティビティを提供する**新たな事業を展開**。

自然観察やザリガニ釣り、ボート乗船等を通じて、公園や自然の魅力に気づくことが、身近な公園利用や外出機会に繋がり、**誰もが当たり前**に公園を利用するインクルーシブ機運の醸成や、子ども達の身心育成の一助となることができた。

今後の身近な公園利用に繋がる



## 地域や利用者との連携強化で、新たなイベントや取組を展開

### 地域に根差したSDGsの取組をさらに拡大

地域の自然や未来について考えるイベント「THINK ETHICAL PARK DAY」は、民間企業やアーティスト、石神井図書館、プレイパークほか**14団体**に連携を拡充。

新たに、地元江戸野菜のピクルス販売や絵本のおはなし会などのブース展開、園内の発生材で制作した楽器パフォーマンスを通じて、石神井公園ならではのSDGsを体感できる機会を提供することができた。

地元由来のSDGsイベント



アプリを使って音集め



みんなで楽しく保全活動



### アプリを活用した新たなワークショップ

石神井公園ふるさと文化館や、ねりま文化センターとの連携により、歴史や自然の名所を巡りながら、アプリで木々や風、水の音などを拾い集めて、オリジナルのメロディーを作成・披露するワークショップを開催。

アプリを活用した**新たな体験型イベント**によって、子ども達にも楽しく石神井公園の魅力を感じてもらうことができた。

### アメリカザリガニBYEBYEプロジェクト

親子連れを中心とした協働で外来種を防除する『アメリカザリガニBYEBYEパイプロジェクト』を**新たに始動**。外来種が環境に与える影響をレクチャーしつつ、釣ったザリガニをオリジナルボックスで回収した。

NPOやボランティアとの連携によって、これまでに**6,512匹**の駆除と、堆肥化による園内循環を行っており、石神井公園の豊かな生態保全に繋げることができた。



# 大泉中央公園

所在地：練馬区／開園面積：10.30ha

広域緑地をフルスケールで楽しむ  
笑顔あふれるファミリーパーク



もっとドキドキ！自然を身近に「みる・さわる・たのしむ」キッズプロジェクト

## 主役は子どもたち「この虫なあに？」

NPOとの連携で、子ども達に様々な生物や植物に触れ、大泉の生物多様性を体感してもらう観察会をバージョンアップ。冬場でも越冬中の虫を観察できる「虫たちのかくれ家のぞき窓」を開発することで、**四季を通じた事業が展開可能となり、年間41回、述べ528人の参加**に繋がった。

またママ友の口コミが新たな参加に繋がり、公園や自然のファンを増やすことができた。

【主な開催例】「ハチなど一見怖い虫」「木の枝やウンチに擬態する虫」「そっくりな虫の見分け方」「同じ昆虫の幼虫・蛹・成虫」「越冬中の昆虫」

## SNS発信やセルフガイドツールの充実

季節の草花や昆虫等をMAPにした「わくわく自然ガイド」の毎月発行や、QRコードを付しスマホで鳴声サンプルが聴けるよう工夫した野鳥ガイドの発行、**ツイッターの年間406件発信**（フォロワー数は**1,438**、**昨年比：122%**）等を通じて、多角的に公園の魅力を発信した。



今日は何の虫さんがいるかな？

触るってドキドキ、でもおもしろい！



地域3公園＋地元SHOPで更なるシナジー効果の発揮

## 地元の支援ホームや青果店も巻き込んだ新たな取組

県営和光樹林公園、区立大泉さくら運動公園とコラボし、広域緑地をフルスケールで楽しむイベント「3公園を巡るキッズチャレンジ」を開催。さらに3公園には売店がないため、**新たに**地元の**大泉障害者支援ホーム**や、**青果店**とも連携した**ミニマルシェ**を展開し、施設の水耕栽培レタスや手作りアクセサリ、地野菜や果物等の販売を通じて、地域一帯となった賑わいを創出することができた。

地元のマルシェで更なる賑わい





## みんなが繋がる、みんなが楽しいインクルーシブな公園

### アートで推進するインクルーシブ！

都立大泉特別支援学校とのコラボ企画をさらに推進。生徒達が制作してくれたちぎり絵や、野菜スタンプ、タイルアート等の作品を大切にお預かりし、園内に展示した。

今年度は、**生徒達自ら**「園内のクリスマス演出をしたい！」という希望を受けた新たな企画や巨大作品の展示も行い、個性的な作品が来園者の目を楽しませることで、自然と会話や相互交流にも繋がっていった。

#### 巨大なタイルアート「つなぐ」



#### 誰でもかんたんに遊べるよ！



### バリアフリーイベント「きびーっす」

障害の有無に関わらず一緒に遊べる・発達障害について理解が得られることを目的に開発されたユニバーサルスポーツゲーム「きびーっす」を**初開催**。

分かりやすいルール・単純な動作・失敗するのが当たり前という案内で、保護者には企画意図を説明しつつ、誰でも気軽に参加してもらい、**公園のインクルーシブな利用気運を一層高める**ことができた。

## 「たのしく・わかりやすい」生物多様性保全

### 園内の自然体験を通じたマナーアップ活動

サービスセンター前では、人気のカブトムシから、「鳴くイモムシ」メンガタスズメの幼虫等ユニークな昆虫まで、**多数の生体を展示**し、子ども達の自然に対する興味や関心を高めた。

また、ちょうの里のコミュニティボードでは、**来園者参加型の企画を月替わりで用意**し自然を満喫してもらいつつ、乱獲や持ち帰り防止を呼びかけ、マナーアップに繋がった。

### 在来種保護と普及啓発

カントウタンポポ等の保全推進のため、在来3種／外来・交雑種の見分け方マニュアルを作成。子ども向け観察会でも活用し、**昨年の2.3倍となる約700株の外来種を駆除**した。

またちょうの里では、セリ、ウマノスズクサほか**6種の食草補植**とともに、ゴマダラチョウ保護のためのエコパッチ「**幼虫を守る落葉のおふとん**」を設定。新たに幼虫等のサイン掲出も行うことで、個体の誘致と観察環境の向上に繋げることができた。

#### そっくりさんのチョウを見分けてみよう



#### キッズラボでは子ども達もドキドキ

